



文化博物館だより 第276号

2009年6月20日

みなさん、こんにちは。梅雨はこれからが本番？ 今日あたり降るのでしょうか・・・

● 正井和行一人と芸術

特別講演会が13日(土)に行われました。今回は、多くの正井作品を所蔵している大分県立芸術会館から、副館長の佐藤直司氏にお越しいただき、講演していただきました。

大分は療養のために正井画伯が移り住んだ土地ですが、画業再開の地であり教鞭をとっていた関係で、色んな人との交流をした地でもありました。そんな中、昭和52年の大分県立芸術会館の設立にも関わりがあり、佐藤氏は「正井さんは大分の作家と思っています」と仰いました。

残念ながら明石では、作品の所蔵がなく、そんな作家がいたとはほとんど知られていません。生家のあった樽屋町の方から「いつ頃お住まいだったんですか？」と問合せをいただいたほどです。佐藤氏は公私にわたって正井画伯とお付き合いをされていたため、ご本人から直接うかがったエピソードを披露され、また、大分出身で文化勲章の受章者である高山辰雄が、正井画伯を評価していたことなど、面白いお話をたくさん聞くことができました。



淡々とした口調で、語られる佐藤直司氏

● “ゆほびか”の碑が、お引越し

エレベーター設置工事とともに、ゆほびかの碑が館の北側に引越しています。明石を形容した「ゆほびか」という言葉の意味は、来館の際に確かめてみて下さいね。今年度いっぱい工事が続きます。これから暑い時期になってきますので、どうぞ明石公園の日影の下を通ってお越し下さい。



雨が降らないので、あじさいがちょっと弱っている様子。雨が降れば湿度も上がるけれど、なんだか洗われたような気分になったりもします。泥ハネは嫌だけど、ちょっと雨が恋しい・・・